



# ベートーヴェンの斬新な試みに満ちた交響曲と、ノルウェーの大自然を感じさせる名作

2020年に生誕250周年を迎えた大作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)と、北欧を代表する作曲家でロマン派時代に活躍したエドヴァルド・グリーグ(1843~1907)。このふたりにはあまり関連性がないように思われる。しかし、ともにピアノの名手であったという共通点もある。グリーグは自作のピアノ用の小品を〈ピアノ・ロール〉の録音に残しており、それは現在でも様々な形で聴くことが出来るが、そのきらびやかなテクニックはピアニストとして高い評価を得ていたと言われている事実を裏付けてくれる。ベートーヴェンは残念ながら録音は残っていないが、そのピアノのテクニックは弟子のツェルニーなどを通して、現代にまで受け継がれている。そういう点で、ふたりは現代にも“生きている”作曲家なのだ。ここでは、その代表的作品を聴く事が出来る。

## ● バロック時代の音楽をベースに書かれた組曲

### グリーグ:組曲「ホルベアの時代より」

まずはグリーグの組曲「ホルベアの時代より」。ホルベア(1684~1754)とは文学者の名前で、グリーグと同じノルウェーのベルゲン生まれである。ホルベアが活躍した17~18世紀、ノルウェーはデンマークの統治下にあったので、ホルベアは「デンマーク文学の父」という評価を得ている。そのホルベアの生誕200年となる1884年にホルベア記念祭がベルゲンで開催され、その時にグリーグはピアノ曲集「ホルベアの時代より」と無伴奏男声合唱曲(カンタータ)を書いている。そして、その翌年に「ホルベアの時代より」の弦楽合奏版を作った。

その音楽のスタイルはホルベアが活躍した17世紀、つまりバロック時代のフランスの作曲家たちの作品を参考にして書かれているので、非常に懐かしく、かつ活発なものとなっている。全5曲で、「前奏曲」~「サラバンド」~「ガヴォットとミュゼット」~「アリア」~「リゴドン」と続く。



「ホルベアの時代より」はグリーグと同郷の文学者ルズヴィ・ホルベアの生誕200年を記念して作曲された

## ● 斬新な試みをたくさん盛り込んだ隠れた名作

### ベートーヴェン:交響曲第8番

ベートーヴェンは交響曲を9曲残したが、面白いことに第5番「運命」と第6番「田園」をほぼ同時期に作曲しており、交響曲第7番とこの交響曲第8番も並行して作曲が進められた。そして1814年に、第7番など他の作品とあわせて、第8番の交響曲が初演された。その時は第7番のほうに人気が集まったのだが、ベートーヴェンはそれに不満だったらしい。この第8番の中にも新たな工夫がたくさん盛り込まれており、ベートーヴェンにとっては自信作だったのだ。

交響曲第8番は全部で4つの楽章から構成されている。第1楽章は序奏もなく、いきなり第1主題が歌われる。第2主題は軽快なワルツを思わせる。第1主題のテーマでこの楽章の最後を終わらせるというのも新しい試みだった。第2楽章はアレグレット・スケルツァンドで、いわゆる活気あるスケルツォではないけれど、ユーモアを感じさせる軽快な音楽が展開される。これもベートーヴェンとしては例外的な試みだった。第3楽章はベートーヴェンが交響曲で唯一使ったメヌエット楽章。第4楽章もロンドながらソナタ形式とも取れる楽章で、ティンパニが1オクターブに調律されているなど、とても斬新な試みが隠されている。NHK交響楽団と広上のコラボレーションが、ベートーヴェンの新しい世界を感じさせてくれるだろう。



交響曲第8番のベートーヴェンによる自筆譜  
写真提供:TPG Images / PPS通信社

## ■ 転機の年のラブレターと交響曲

特別企画!  
かげはら史帆の  
ベートーヴェンコラム  
Vol.2

『交響曲第8番』が作曲された1812年。

41歳のベートーヴェンは、恋人との逢瀬のために馬車を走らせていました。

実はかなり惚れっぽく、若い頃には「遊びの恋」もそれなりにあったベートーヴェン。しかし、1812年に旅先のテプリッツで書かれた宛先不明のラブレターは、相手を「不滅の恋人」と呼ぶほどの本気の恋心にあふれていました。いったいお相手の女性はだれ……?これまで何人ものシンデレラ候補の名前が挙がりましたが、まだ確定には至っていません。

その有名な恋愛劇の直後に書き始められたのが、この交響曲。もちろん、近い時期に書かれたからといって、この交響曲と恋愛感情を安易に結びつけるわけにはいかないでしょう。けれど、ちょうどアラフォーを迎えた「お年頃」の彼が、人生の大転換を目論んで、パートナーになってくれるかもしれない女性との恋と、新しい交響曲の作曲に没頭したのはごく自然な成り行きといえるでしょう。1812年。それは最強とうたわれたナポレオン軍が劣勢に追い込まれ、世の中全体がダイナミックに変化した年でもありました。

残念ながら、ベートーヴェンの恋は実らずに終わりました。しかし『交響曲第8番』は完成し、ナポレオン戦争が終わる直前の1814年2月にぶじ初演を迎えたのでした。

(かげはら史帆/ライター)